

令和7年度 学校経営要綱

広川町立下広川小学校

1 学校の教育目標

(1) 学校経営の基本方針

学校教育は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法をはじめ、その他の関係法規及び学習指導要領、福岡県教育委員会や広川町教育委員会の教育大綱に基づいて公教育を実施するものである。

また学校は、子供が安心して学び、保護者や地域に信頼されるとともに、地域とともに子供を育てる学校づくりを実施することが求められている。

そのためにも、人権・同和教育を基盤に据えて、一人一人を大切にする教育を全職員で実施していく。

(2) 学校教育目標

夢や希望をもち、知・徳・体の調和のとれた子供の育成

【学校教育目標に関する見解】

広川町第5次総合計画（令和5年度～令和13年）の策定を受け、町の教育施策である「未来の広川町を担う一人一人の個性と能力を伸ばし、生きる力と豊かな人間性を育てる」ためには、生きる力の原動力である「夢や希望」をもたせることが大切である。また、令和7年度の広川町の学校教育目標は、「子供の個性と能力を伸ばし、生きる力を育てる学校教育の推進」となり、一人一人の個性を大事にした教育が重視されている。そして、こどもまんなかアクションプラン（令和6年12月）において、「やりたいことに挑戦できるまち」という自分の思いを表現できる子供の育成を重視する目標が掲げられた。

「知・徳・体の調和」は、中央教育審議会答申において、我が国の教育の「不易」な内容であると同時に、「一人一人の個性と能力を伸ばし、豊かな人間性を育てる」ことにつながると提唱されている。

これらのことから、上記の学校教育目標は、現代教育課題にあった目標になっていると考える。

(3) めざす子供像、学校像、教師像

子供像

- 自分の力で学び、進んで表現する子供（知：確かな学力）
- 思いやりの心をもち、共に伸びる子供（徳：豊かな人間性）
- 進んで体を鍛え、粘り強くやり通す子供（体：健やかな体）

学校像

- 活気に満ち、子供の育ちの姿に責任がもてる学校
- 心豊かな環境構成がなされ、落ち着きのある学校
- 地域や保護者とつながり合い、信頼される学校

教師像

- 教えるプロとしての自覚をもち、互いに研鑽する教師
- 子供としっかり向き合い、伸びや良さを称賛する教師
- 経営参画意識をもち、意図的、計画的、持続的に活動する教師

2 子供の実態等

(1) 学力について

よ さ	課 題
○全国学力・学習状況調査（全て全国平均以上） ○全国学テ質問紙（意見交換+14、進んで助ける+13、良好な友達関係+11、自分の考えを書く+11） ○県学力調査（全て全国平均以上） ○単元テスト全学年期待得点以上	●全国学テ質問紙（家庭学習-12、課題解決に自分から取り組む-11、自分の考えが伝わるように工夫して発表-9、タブレットの活用-14） ●教師アンケート（発表する子の固定化、語彙力不足、読書量不足、タブレットの活用少）

(2) 心情面について

よ さ	課 題
○進んであいさつ（児童アンケート）90%できる ○進んで助ける（全国学テ）全国平均+14 ○人の役にたちたい（全国学テ）全国平均+12	●自分のよさが言えない（教師アンケート） ●自己肯定感（児童アンケート）70%肯定 ●スマホの使い方・約束（全国学テ）-4

(3) 体力について

よ さ	課 題
○週3回以上運動（児童アンケート）90%できる ○運動は好き（児童アンケート）95%好き	●できない運動はしない（教師アンケート） ●運動する・しない子の2極化

3 教育課題及び経営課題

【教育課題】

- 課題に自ら働きかける主体的な学習態度の育成
- 自己肯定感の高揚
- タブレットの活用力の向上

【経営課題】

- 個に応じた多様な授業形態の工夫
- タブレットを活用した授業力の向上
- 学校経営参画意識の高揚

4 本年度の重点目標

「自己決定」・「自己解決」できる子供の育成 ～計画・協働・振り返り～

この重点目標は、自分の学びや課題を自分で決定し、他者と協働しながら、自己解決できる子供を育てることをねらう。そうすることで、自分に自信をもつことができ、自己の学びが充実し、自己肯定感を高めることができるだろうと考える。

「自己決定」とは、子供が学びのめあてや課題、方法を決定し、一人一人の学びや活動の時間を保証・充実させることである。「自己解決」とは、自分が「自己決定」したことを、強い意欲と責任をもって追求した後、協働的な関わりによって自分なりの成果を見出し、やり遂げた満足感や充実感を感じ取ることである。

「計画・協働・振り返り」は、重点目標達成のための方策である。「計画」とは、子供が課題や方法を選択・決定する場を設定することである。「協働」とは、追求した一人一人の考えを共有したり、数人で共に考えたりする中で、新たな解決の糸口を見出す場を設定することである。特にタブレットの活用を行う。「振り返り」とは、自己解決した過程を想起し、自分の頑張りやよさ、学びの価値づけの場を設定することである。この3つによって、重点目標達成をめざす。

【本年度のめざす子供・教師の姿】※成果指標は、職員で協議の上決定

＜めざす子供像と成果指標＞

- 自分の学びや課題を自己決定できる。（成果指標；83%＜児童アンケート＞）
- 友達と考えを伝え合いながら、自己解決できる。（成果指標；81%＜児童アンケート＞）
- 自分にはよいところがあると感じることができる。（成果指標；82%＜児童アンケート＞）

＜めざす教師像と成果指標＞

- 個に応じた学びを促す計画の場を設定できる。（成果指標；85%＜教師アンケート＞）
- タブレットを活用した協働的な学びを設定できる。（成果指標；78%＜教師アンケート＞）
- 振り返りで子供のよさを表出することができる。（成果指標；85%＜教師アンケート＞）

5 学校経営の重点

日常的な指導の充実 ～三推進部会で提案・共通実践・振り返り～

【重点目標達成のための具体的方策】

- ① 日々の授業の充実
 - ・指導案なしの月1回以上の授業公開＜全体授業研修のみ行う。あとの授業研修は廃止。＞
 - ・ICT教育の推進（個別最適な学び・協働的な学びの実現）
 - ・「下広小の約束」の継続・徹底
 - ・振り返りで自己の学びと達成感を蓄積（ポートフォリオ）
- ② 校内研修の充実
 - ・授業マネジメント研修の充実（授業づくりのOJT、授業公開の計画）
 - ・学びたい研修計画の作成（外部講師による研修の推進）
- ③ 学力向上・心の教育・体力向上の三推進部会の充実
 - ・毎月の児童アンケートを活用したPDCAのマネジメントサイクル
 - ・重点目標達成に向けた起案・提言システムの構築
- ④ 道徳の時間を要とし、豊かな心を育む道徳教育の推進
 - ・行事と関連させた「考え、議論する道徳」の推進
 - ・子供の課題意識を大事にした授業展開の推進
- ⑤ 特別支援教育の充実
 - ・特別支援コーディネーターを中核とした個に応じた支援体制
 - ・外部機関との積極的な連携
- ⑥ 不登校児童支援の充実
 - ・不登校児童が学校に来たくなる環境づくり
 - ・タブレットの有効活用